

「京都の竹」で活性炭

サンコール 建材・車内装材向け

【京都】サンコールは京都府宮津市の竹を活用した素材製品のラインアップを追加する。既存の竹炭チップや竹炭パウダーに加え、活性炭のチップやパウダーなどを開発する。建材向けや自動車内装材など向けとして、2027年度末までに試作品を完成し、展示会などに展示する。



サンコールがキョウバンブラックで展開する竹炭チップやペレット

京都府宮津市の竹を活用した素材「KYOBANBLACK」（キョウバンブラック）は、すでにインキや塗料などで使用され、絶縁性を生かしたインク原料としては自動車のインストルメントパネルなどにも使われている。

さらに採用の幅を広げるため、従来品よりも比表面積が大きい活性炭のチップやパウダーについても、今後機能などのデータ取得を行い、開発を進めていく。

また、竹炭を配合した樹脂ペレットなどの複合素材の展開も狙う。

宮津市には約6000畝の竹林があり、近年は放置される竹林が増えていくという。放置竹林の拡大防止のため、毎年1畝ほどの竹を伐採。伐採した竹をチップ化にしたものを、サンコールが購入し、ヒーター熱で炭化する過熱水蒸気の技術を用いて、竹炭にしている。

活性炭の製造方法は少し異なるが、従来方法のキョウバンブラックは、燃やさず炭化するため、一般的な野焼きなどの方法と比べ、1ト当たり約190キロの二酸化炭素（CO₂）排出量削減に貢献できるとしている。